

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	25204
----------	-------

1. 開設大学	安田女子大学 文学部	開講場所 (キャンパス・施設)	本学
2. 科目名	言葉がつなぐ人の心 –メールと手紙の今昔物語–		
	学問分野	番 号	名 称
3. 担当教員	田中 宏幸、吉目木 晴彦、内田 誠一、川岸 克己 (文学部 日本文学科)		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 30 年 8 月 1 日 (水) ~ 平成 30 年 8 月 2 日 (木) 1・3 回目 10 時 40 分 ~ 12 時 10 分, 2・4 回目 13 時 00 分 ~ 14 時 30 分		
個別開講日	1 回目 8/1	2 回目 8/1	3 回目 8/2
	4 回目 8/ 2	5 回目 /	6 回目 /
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /
	10 回目 /	11 回目 /	12 回目 /
5. 募集定員	50 人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>第 1 回「メール表現法～より短く！より早く！～」川岸克己准教授 かつては手紙、現代はメールが文字による意思疎通の主要な手段です。今日のメールの作法は、より短く書き、より早く返信することだといわれています。それを可能にする表現方法とはどのようなものか、なぜ私たちは早く返信するのかについて実例を見ながら多角的に考えてみましょう。</p> <p>第 2 回「実践的な日本語文章とコミュニケーション」吉目木晴彦教授 この授業では、「仕事を通じた社会貢献の構造」「分業社会でのコミュニケーション能力とは何か」「日本文学科出身者の強み (Wants を見つける)」「仮説と検証」「日本文学科で身につけるべきこと」「合意形成の意味」を通じ、日本文学科で学ぶことが、どのように社会貢献に繋がり、卒業後の就業に役立つかについて講義します。</p> <p>第 3 回「人を待つ時間を楽しむ—漢詩に見る古代人の心—」内田誠一教授 その昔、他人の家を訪ねたり、人と待ち合わせをしたりした場合、相手が不在であるとか、なかなか相手がやって来ないことがありました。そんな時、相手を待つ時間を楽しんだものでした。現代人には理解できない「人を待つ」心を、漢詩の中に探ってみましょう。</p> <p>第 4 回「高校古典の授業を楽しくする方法」田中宏幸教授 現代語訳と文法解説に四苦八苦する高校古典の授業とは違う方法もあるのです。『枕草子』を材料にして、歌のやりとりの見事さを味わうとともに、私達も連句に挑戦してみましょう。古典の苦手な人でも大丈夫。いえ、古典が苦手な人こそ受講してみてください。</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし		
9. 開講条件※1 ない	① 最少開講人数 (人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月13日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月14日(土)以降の開講科目は6月末まで)		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと 女子に限る		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。